

第48回 日本カトリック映画賞

「ただいま、つなかん」
授賞式・上映会&対談



ただいま、つなかん

2024年7月6日(土)

星陵會館ホール

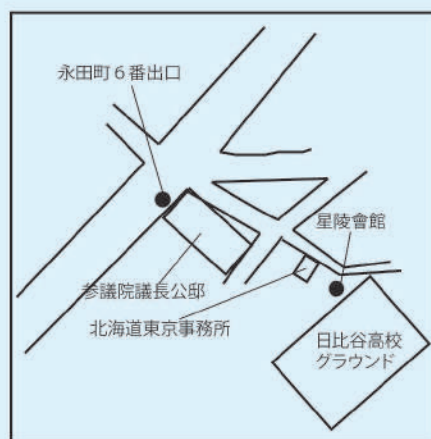
*13:00より上映(12:30開場)

12:30 開場
13:00~ 授賞式に引き続き、「ただいま、つなかん」上映
休憩
15:20~ 風間研一監督+晴佐久昌英神父対談

前売券販売 聖イグナチオ教会案内所 ☎03-3230-3509
スペース セント ポール ☎03-5981-9009
サンパウロ書店(四ッ谷駅前) ☎03-3357-8642
高円寺教会 天使の森 ☎03-5307-6680
ドン・ボスコ社 ☎03-3351-7041

チケット:1,500円

障がい者:1,000円(介助者1名も同額)



東京メトロ南北線・半蔵門線・有楽町線
永田町駅より徒歩3分
6番出口、平河町の交差点から坂道を
下ると右手にあります。

チケットのお申し込みは、SIGNIS JAPAN事務局 E-mail:info@signis-japan.org

お問合せ担当 大沼：携帯090-8700-6860

主催 SIGNIS JAPAN (カトリックメディア協議会) 後援 カトリック中央協議会広報

震災によって生まれた「絆」のその先には
誰かが誰かを思う気持ちが溢れていました

宮城県気仙沼市唐桑半島鮎立で100年続く牡蠣の養殖牡蠣業を営む菅野和享さんと一代さん夫妻は、東日本大震災当時、津波により浸水した自宅を補修し、学生ボランティアの拠点として開放、半年間で延べ500人を受け入れてきました。若者達に「つなかん」と呼ばれた場所を夫妻の「皆がいつでも帰ってこられるように」との思いから、2013年秋に民宿に生まれ変わります。

女将となった一代さんは、自慢の牡蠣とワカメを振る舞い、土地の魅力を発信。そんな「つなかん」に引き寄せられるように次々と元ボランティアの若者がこの土地に移り住んでいきます。彼らは海を豊かにする森を育てたり、漁師のための早朝食堂を営んだり、移住サポート体制を整えたりと、地域に根ざしたまちづくりに取り組み始めます。そんなある日、海難事故が発生。養殖業を廃業し、閉じこもりがちになった一代さんを思い、全国各地から「つなかん」に元ボランティアの仲間が集まってきます。涙のときを経て、民宿を再開。いつしか若き移住者達は地域を担う立場になっていきます。コロナによる民宿存続の危機の中、震災から10年という節目を機に、一代さんは大きな一歩を踏み出そうとしていました。

★オフィシャルサイト： tuna-kan.com

監督：風間研一

1977年神奈川県横浜市出身。
ドキュメンタリー映画監督・ディレクター・プロデューサー。
立教大学理学部卒。ドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」
(語り:渡辺謙 音楽:岡本優子)で初監督。

プロデューサー:柴崎木綿子
製作著作:文化工房
©2023 / bubkaakobo
2023年/日本/ビスタ/115分

《授賞にあたって》

SIGNIS JAPAN顧問司祭 晴佐久昌英(東京教区司祭)

カトリック映画賞はキリスト教の映画賞であるが、そのキリスト教の根本原理は、特定の宗教を超えた普遍的な真理としての、「復活」にある。人の世のあらゆる試練は「復活」に向かう生みの苦しみのだから、どんなに重い十字架を背負わされても、その先には必ず真の喜びがあると信じ続ける、ある意味究極の楽観主義だ。イエスの十字架上の死という絶望が、イエスの復活という喜びに変わることを体験した弟子たちは、この宇宙の根源に「復活」が秘められているという真理に目覚めたのである。

『ただいま、つなかん』は、「復活」の映画だ。一見そこには、この世の絶望が映っているようにも見える。突然襲ってくる津波の悲劇や、愛する人との理不尽な死別。さらには、生活を破壊するウィルスの流行。現実の十字架は、あまりにも過酷だ。

しかし、よく見るとそこには、絶望を優しく包み込む希望が映っている。復活を夢見て助け合う、笑顔の仲間たちが映っている。およそこの世のあらゆる映像は過去を映しているものだが、この映画には驚くべきことに、未来が映っている。

対象にカメラを向ければ自動的にドキュメンタリーが撮れるわけではない。対象の奥深くから、人の意志や偶然を超えた聖なる働き、あの名付けようもない慈愛に満ちた何ものかが浮かび上がる瞬間を捉えて、初めてドキュメンタリーは成立する。

『ただいま、つなかん』は第一級のドキュメンタリー映画だ。いまなお試練の内にある人に復活の未来を見せてくれる、ときめく映画だ。日本カトリック映画賞にまことにふさわしいと、最大限の評価を与えたい。

●日本カトリック映画賞とは……

SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会)は放送・映画・視聴覚メディア・インターネット等のメディアを使って、キリストのよい知らせ(福音)を広めたいと望んで、活動しているカトリックの司祭、修道者、信徒、求道者の団体です。

「日本カトリック映画賞」は、前々年の12月から前年の11月までに日

本で公開された映像作品の中から、カトリックの世界観と価値観にもっとも適う作品にSIGNIS JAPANから贈られる賞で、今年で48回目を数えます。

SIGNIS JAPAN <http://signis-japan.org>
SIGNIS ASIA <http://signisasia.org>
SIGNIS WORLD <http://signis.net>

1976年 土呂久
1977年 ねむの木の花の詩が聞こえる
1978年 春男の翔んだ空
1979年 マザー・テレサとその世界
1980年 父よ、母よ
1981年 教育は死なず
1983年 この子を残して
1984年 国東物語
1985年 銀河鉄道の夜
こんいちわ地球家族
1986年 海と毒薬
1987年 ゴンドラ
1988年 火垂るの墓
1989年 黒い雨
戦場の女たち
1990年 ベンボスタ子ども共和国
1991年 あーす
1992年 阿賀に生きる

1993年 スペインからの手紙
1994年 学校
1995年 地球交響曲第二番
1996年 絵の中のぼくの村
1997年 愛の黙示録
1998年 ユキエ
1999年 ナビの恋
2000年 老親
-豪日に架ける- 愛の鉄道
2001年 GO
2002年 チョムスキー9.11
2003年 HIBAKUSHA—世界の終わりに
2004年 ライファーズ
2005年 村の写真集
2006年 博士の愛した数式
2007年 ひめゆり
2008年 おくりびと
2009年 風のかたち

2010年 月あかりの下で ある定時制高校の記録
2011年 エンディングノート
2012年 隣人
2013年 先祖になる
2014年 谷川さんひとつ詩を作って下さい。
2015年 あん
2016年 この世界の片隅に
2017年 プランカとギター弾き
2018年 ほげますから、よろしくお願ひします。
2019年 こどもしよくどう
2020年 コンプリシティ/優しい共犯
2021年 梅切らぬバカ
2022年 桜色の風が吹く



SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会)事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 女子パウロ会内
E-mail:info@signis-japan.org
担当:大沼 携帯090-8700-6860